

### 与党惨敗の韓国地方選挙

5月31日に韓国で統一地方選挙が実施された。この統一地方選挙は、ソウルをはじめとする7大都市の市長、9つの道(県)の知事、230の市長、区長、郡守、さらに区、市、道議会の議員の改選が行われるという、極めて大掛かりなものであった。4年に1回の選挙ではあるが、来年にある大統領選挙の前哨戦として、その成り行きが注目された。

結果は野党ハンナラ党の圧勝で、広域団体長選挙(前述の7大都市の市長と9道知事の選挙)で16のうち12ポスト、また基礎団体長選挙(前述の230の市長、区長、郡守の選挙)では159ポスト(全体の69.1%)を取った。それに対し、与党ウリ党は広域団体長選挙で1ポスト、基礎団体長選挙では21ポスト(同9.1%)を獲得するに止まり、惨敗した。

与党惨敗について、選挙直後行われた世論調査では、「盧武鉉大統領の責任が非常に大きい」が49.3%、「大統領にある程度責任がある」が35.3%で、両者合わせて84.6%



にも達していた。原因については、「景気不振」が22.1%、「不動産などの政策の失敗」が19.8%と、経済要因が41.9%を占めた。次いで、「大統領の指導力への不満」が16.9%、「政

治不安」が14.1%、「ウリ党に対する不満」が6.8%と、政治要因が続いている。

今回の統一地方選挙の惨敗で、与党内にかねてから燻っていた不満が爆発し、政府の政策批判に止まらず、「与党ではなく、盧武鉉党が負けたのだ」、「ウリ党では(大統領選挙は)戦えない」という声すら上がった。そのため、政界再編成の動きが今後強まっていくと見られる。

今回の地方選挙の結果は、来年の大統領選挙にどういった影響を与えるのだろうか。常識的に見て、野党ハンナラ党に有利であることは間違いない。しかし前回の大統領選挙では、半年前に行われた統一地方選挙でハンナラ党が圧勝したにもかかわらず、大統領選挙でハンナラ党は負けている。地方選挙と国政レベルの大統領選挙は違う、というのが大方の見方でもある。

来年の大統領選挙の最大の争点は、金大中政権以来推進されて来た「民族共助」路線は維持されるべきなのか、それともそれ以前の「韓米共助」路線に復帰すべきなのか、という極めてイデオロギー色の強い対立にある。不利な状況にある与党ウリ党は、第三期左派政権を誕生させるべく、南北首脳会談をはじめ今後色々な手を打ってくるものと見られる。

年が替わると、韓国は大統領選挙一色になる。韓国の大統領選挙は一大ドラマである。「銃声なき内戦状態」と言われる左右の対立が激しい韓国で今後何が起ころのか、韓国の大統領選挙の行方は日本にも大きく影響する故、鋭意注目していく必要がある。

(野副伸一・アジア研究所教授)

(7頁より続く)

のタイの交通環境はよほど異なったものになっていたであろう。しかし市電計画もトローリーバス転換計画もともに放棄され、1961年以後はバス一本槍の交通政策に方針を転換する。これが後に悪名高いバンコクの交通渋滞をもたらす根本原因を作り出すことになるのである。こうして王宮付近に最後まで残った路線が廃止されたのは1968年9月30日であった。なお最盛期のバンコク市電は路線総延長48.7キロ、車両206輛を数えたという。

19世紀末に他のアジア諸国に先駆けて市内電車を導入したバンコクは、その後の誤った交通行政により戦後の無秩序な都市化とモータリゼーションを招いた。その波に洗われて市電もまた消えてしまった。その後バスと車の洪水がバンコクを襲い、この都市を世界有数の交通渋滞に苦しむ都市へと転落させてしまったのである。その後70〜80年代の暗黒時代を経ていまようやくバンコクにも近代的な都市交通の時代が到来しつつある。今後バンコク首都圏の都市交通が整備され、悪名高い交通渋滞が緩和されてゆくことを期待したい。

- (1) のむらとある・慶應義塾大学総合政策学部) Rattanakosin Bicentennial, An Illustrated Book on Historical Events, Korusapha Business Org., Bangkok, 1982
- (2) 小林茂「バンコクの市電は消えた」『鉄道ファン』第9巻、100号、昭和44年10月号、p.114
- (3) Smithies, Michael, Old Bangkok, Oxford U.P., Singapore, 1986